

オピニオン

日朝首脳会談

史上初の米朝首脳会談を契機に朝鮮半島情勢が大きく変動する中、日本が北朝鮮にどのように向き合うかが改めて問われている。安倍晋三首相が政権の最重要課題に位置づける日本人拉致問題の解決と、その鍵となる日朝首脳会談の開催をめぐるのは、どうアプローチするか異なる意見が存在する。日朝首脳会談の拙速な開催に警鐘を鳴らす山谷えり子・自民党北朝鮮拉致問題対策本部長と、早期の会談を提唱する石井一・元自治相に考えを聞いた。

「日朝首脳会談を急ぐべきか」「日本人拉致問題を解決したいのなら、日朝国交正常化が必要であり、そのために速やかに日朝首脳会談を行うべきだ。ただ、交渉の入り口から拉致問題を外さなければならぬ」「なぜ外さなければならぬのか」「私の話は今の世論を逆なでするかもしれない。私も拉致被害者を取り返してほしいと願っている。ある日突然、青春を奪われ、愛しい家族、故国と引き離された横田めぐみさんのこと

「日朝首脳会談の開催についての考えは」「拉致被害者も、ご家族も高齢化している。被害者全員の即時一括帰国という拉致問題の解決には、具体的に日朝首脳会談を開く必要がある」「ロシアが9月に極東・ウラジオストクで開く国際会合に合わせた日朝首脳会談も取り沙汰されている」「『日程ありき』はだめだ。拉致被害者全員の帰国の確約がなければ、会っても意味がない。安倍晋三首相は世

焦って日程ありきはダメ

界の首脳の中で、誰よりも北朝鮮の不誠実さや時間稼ぎなどを冷静に分析してきた。首相は6月14日に拉致被害者家族と面会した際も「私は北朝鮮にだまされたい」と述べている。拉致問題解決の条件が整わない限り、首相も行動に移すことはないだろう

ニッポンの議論

「日朝国交正常化を目指す超党派議連の総会では、早期の日朝首脳会談が望ましいとの意見も出た」「拉致被害者家族から、安倍首相に対し『慌てないでください』と求める発言もあった。北朝鮮に振り回されてきた苦しみの中から生まれ、真の解決

を考えるとかわいそうで仕方ない。もし生存しているのなら、何とか取り返したいが、北朝鮮は『拉致問題は解決済み』の立場を崩していない

「平成14年に当時の小泉純一郎首相と金正日総書記が会談した際、金氏は日本人拉致を正式に認め、謝罪した。小泉氏は何人帰ってくるか分からないが、冒険心と政治的な勘で訪朝し、5人が帰国した。一方、北朝鮮は拉致被害者13人のうち、8人が死亡と通告した。最高権力者が首脳会談で発した言葉であり、重く受け止めるべきだ。肅



石井一氏

「北朝鮮は2年の金丸信元副総理、過去の日朝交渉をどう見るか」「北朝鮮は2年の金丸信元副総理、過去の日朝交渉をどう見るか」



山谷えり子氏

「北朝鮮が対話路線に転じ、融和と危機感を覚え、対話のテーブルに上ったのだと思う。安倍外交が5年半の間にまいった種が実りつつある」

拉致抜きで交渉入り口に

「北朝鮮の核・ミサイルの開発が看過できない状況になってきていることや人権侵害国家の残虐非道な体質について、安倍首相は国際社会に訴え続け、2014年には『北朝鮮における人権に関する国連調査委員会』(COI)の報告書も公表された。国際社会の圧力が効き、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長は『何とかしないと自分は孤立し、体制もどうなるか分からない』と危機感を覚え、対話のテーブルに上ったのだと思う。安倍外交が5年半の間にまいった種が実りつつある」

「北朝鮮の非核化について」「金正恩氏は絶対に核を手放さないだろう。故金日成主席の頃から3代にわたって開発し、米国と対等のレベルに並び、世界の政治に躍り出た。核は北朝鮮の宝であり、命綱だ。貧しい国

が核の力で米朝首脳会談を行い、金正恩氏がトランプ米大統領と握手した。北朝鮮の国際的立場を築いた核への思い入れは、想像を絶するものがある」

「今後、日本がとるべき行動は」「国交正常化し、北朝鮮に連絡事務所などを設けられる環境をつくる。日本の警察や拉致被害者の家族が北朝鮮で調査をした方が、丸投げするよりはるかに良い。だから日朝首脳会談の早期の開催が必要だが、拉致問題を主張し続ける限り会談は困難だ。拉致問題は北朝鮮の国情や命に対する考え方の違い、時間の経過の長さが難しくさせている。日本が『とにかく帰せ』と迫っても、求めている死に診断書などは出てくず、ないものねだりとなる。硬直化するだけとなるため、日本は相互理解を求めて北朝鮮と対話すべきだ」

「北朝鮮はこれまで日本国内世論の分断工作をしてきた。今後はさらに激しい仕掛けがある」と認識すべきだ。拉致問題や国交正常化をめぐる国会議員、とりわけ与党議員が政府方針と異なることを主張すると、北朝鮮に間違ったメッセージを送ることになる。拉致問題の解決に取り組んできた安倍首相の外交は、これから正念場を迎える。それを支えるためにも、国内世論の一致が何より大事だ」(原川貴郎)

「冷静に見つめる必要がある。核・ミサイルの放棄に関する具体的な動きは確認されていないし、拉致問題も全く何も進んでいない。北朝鮮の政策変更がない限り、圧力をかけ続ける基本方針は絶対に変えてはならない」

「北朝鮮は日本の世論を分断しようとするのではないか」「北朝鮮はこれまでも日本国内世論の分断工作をしてきた。今後はさらに激しい仕掛けがある」と認識すべきだ。拉致問題や国交正常化をめぐる国会議員、とりわけ与党議員が政府方針と異なることを主張すると、北朝鮮に間違ったメッセージを送ることになる。拉致問題の解決に取り組んできた安倍首相の外交は、これから正念場を迎える。それを支えるためにも、国内世論の一致が何より大事だ」(原川貴郎)

(今仲信博)